

5 福山市

プラットフォーム設立前の取組団体の状況

5.1.1 これまでの取組

福山市ではプラットフォーム設立以前から、ひきこもり支援、子ども食堂支援、若者向けのくらしの悩み相談等、各分野において行政と民間団体が連携し取り組みを進めてきた。本項ではそれぞれの取り組み状況について記載する。

● ひきこもり支援

➤ 相談窓口「ふきのとう」の設置

ひきこもり状態にある方やその家族に対して、本人の状態や家族の思いに応じて助言を行うとともに、医療・福祉・就学などの適切な支援に繋ぐための相談窓口「ふきのとう」を設置している。

保健師が相談を受け、本人の年齢や状態、相談内容に応じて適切な支援先を紹介するほか、毎月1回臨床心理士による定例相談を受け付けており、家族の関わり方などを相談できる。

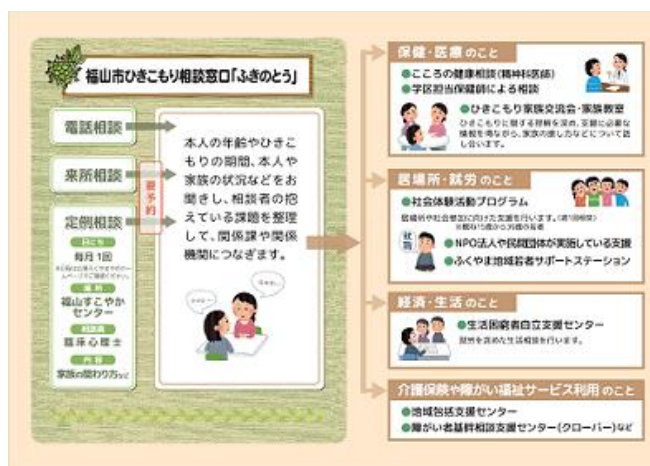


図 5-1 福山市ひきこもり相談窓口「ふきのとう」リーフレット

➤ ひきこもり家族交流会・家族教室の実施

家族同士が集い、ひきこもりに関する情報を交換し、不安や悩み等、家族の気持ちを交流する場としてひきこもり家族交流会を実施している。

また、ひきこもりに関する知識や対応方法を学び、本人の理解を深める場としてひきこもり家族教室を実施している。

● 子ども食堂支援

➤ 「福山市子ども食堂応援金」の交付

2023年に、エネルギー・食料品価格の高騰により影響を受けた子育て世帯

の負担軽減を図るため、子ども食堂を運営する団体へ応援金を支給した。対象は 2022 年度に子ども食堂の開催実績があり、現在も継続的に開催し、今後とも開催する予定がある団体である。

実施団体と行政の意見交換も実施した。

- 若者・くらしの悩み相談

- 「ふくやま・ヤングサポートネットワーク」の設置

ひきこもり・不登校・ニート問題を抱える子ども・若者・家族を支える支援機関として「ふくやま・ヤングサポートネットワーク（ペアペア）」を設置し、官民連携して研修会等を実施している。

- まちづくり

- 「福山市まちづくりサポートセンター」の設置

市民活動を全市的に支援する拠点として、「福山市まちづくりサポートセンター（まちサポ）」を設置している。まちサポでは、さまざまな団体のマッチング（紹介）、情報の受発信、団体・人材育成、相談窓口の視点からまちづくりに参画するプレイヤーをサポートしている。

- ① 多様な人材・団体のマッチング、ネットワークづくり

社会的課題の解決に向けた、団体同士のマッチング（紹介）やボランティア・NPO 団体のネットワークづくりなどを行っている。まちサポ主催の交流会も定期的に開催している。

- ② 情報の収集・発信

ボランティア団体や NPO 団体、行政が行う事業内容やイベント情報、各種助成金情報などのまちづくりに関する情報をウェブサイトや SNS で発信している。

- ③ 人材及び団体の育成事業

公益的な市民活動を担う人材づくりやそれに必要な知識・ノウハウの提供、助成金の支援などを行っている。まちサポ主催のセミナーも開催している。

- ④ ボランティア・NPO 等相談事業

専門家による、NPO 法人の設立に関する相談やボランティア団体等の活動資金確保など、団体運営に関する相談事業を実施している。



図 5-2 福山市まちづくりサポートセンター ホームページ

➤ 交流館

地域住民の活動を支える身近なまちづくりの拠点として、各小学校区に 1 館ずつ交流館（93 館）がある。市民に身近な相談窓口として、地域課題や生活に関する相談を受け、解決に向けて関係機関と連携して取り組んでいる。

● 包括的支援に向けた取り組み

➤ 「つながる」シートの活用

支援機関に相談に来た方の問題や悩みが、複数の機関に関係する場合、次の相談先へ確実に相談内容がつながるようにするため、聞き取った内容をひとつにまとめた「つながる」シートを作成している。

「つながる」シートには相談者が記入するシートと相談受付者が記入するシートに分かれており、状況を適切に次の相談先に共有できるようにしている。

相談票 (相談者が記入してください) (様式1)

年 月 日

お知りのこと (ご相談の内容)

■ご相談内容全てに○をつけてください。
一冊回っていることに○をつけてください。

病状や健康、障がいのこと	住まいについて	収入・生活費のこと
家賃やローンの支払いのこと	税金や公共料金などの支払いについて	債務について
仕事探し、就職について	仕事上の不安やトラブル	地域との関係について
家族との関係について	子育てのこと	介護のこと
ひきこもり・不登校	DV・虐待	食べるものがない
その他 ()		

■ご相談されたいことを具体的に書いてください。
支援にあたっての希望も書いてください。

ふりがな		性別	☐ 男 ☐ 女 ()
名 前		生年月日	☐ 大正 ☐ 昭和 ☐ 平成 ☐ 令和 ☐ 西暦 年 月 日 歳
住 所	〒 -		
電 話	自宅		携帯
来訪者 (※)ご本人以外 の場合、記入し てください	名前		ご本人と の関係 ☐ 家族 (本人との続柄:) ☐ その他 ()
	住所		
	電話 (自宅)		電話 (携帯)

相談支援の検討・実施等にあたり、私の相談内容を必要となる関係機関(者)と情報共有し、
保護・援助することに同意します。 ※ご了解される場合、チェックしてください。 同意する ☐ 同意しない ☐

相談記録 (相談受付者が記入してください) (様式2)

相談受付日	月 日 ()	部署名:	担当:
相談者の部署	☐ 仕事 () ☐ 多量債務 () ☐ 健康・生活 () ☐ 介護 () ☐ 子育て () ☐ その他 ()		
☐ 相談のとおりに ☐ 次のとおり	家族関係図 (ジェノグラム)		
相談内容・概要			
相談内容・概要			
相談内容・概要			

※次の相談先を紹介する場合は、原本を本人が所持し、写しを所管課が保管してください。

図 5-3 「つながる」シート様式

5.1.2 孤独・孤立対策に取り組むことになったきっかけ

福山市では既に各分野で取り組みを進めているが、行政内部、外部問わず、個別の課題に対する縦割りのアプローチが中心であり、横のつながりが十分とはいえない状態であった。

課題が複合的かつ多様化する中で、単独の支援機関では解決が難しく、他の関係機関の業務についても理解不足により、十分な連携が取れていない状態では問題の解決や予防は難しい。

こうした課題の解消を目指し、孤独・孤立対策の取り組みや連携プラットフォームの設置を行うことが決定された。

5.1.3 プラットフォーム設置により何を実現/解決したかったか

5.1.2 で記載した課題を踏まえて、プラットフォームが果たす役割として、行政・地域・NPO・事業者が日常的に課題を共有し、資源を持ち寄り、協力して解決していく包摂的な地域づくりを目指し、

- ① 業種/支援分野を超えた支援者の連携・理解促進の場づくり
- ② 市民の複合的な悩みを、分野を絞らず対応できる環境づくり

に取り組むことを掲げた。

上記を実現するために、福山市版プラットフォームではまちづくりと連携しながら孤独・孤立対策を進めていくことを目指す。地域団体や商店街等の事業者等にもまずは状況を知っていただき、連携することで、孤独・孤立に陥る可能性がある市

民とのタッチポイントを確保し、孤独・孤立を予防するような取り組みを進めていくことを目指している。

5.1.4 プラットフォームの体制

プラットフォームの設立は2024年5月を予定しており、同月に本PFとしての初回の会議を開くことを予定している。設立自体は行政にて行うが、参加した団体同士がつながり、新たな取り組みを生んでいくことを目指している。

設立メンバーとしては市に加え、社会福祉法人福山市社会福祉協議会および、居場所づくり、学習支援などを行うNPO法人や各種ボランティア団体が名を連ねるが、将来的には下図のような範囲まで拡大していき、連携を強めることを目指す。メンバーは固定とせず、地域関係者やワークショップ参加者等に声掛けをすることで、新たな構成員を巻き込んでいくことを目指す。

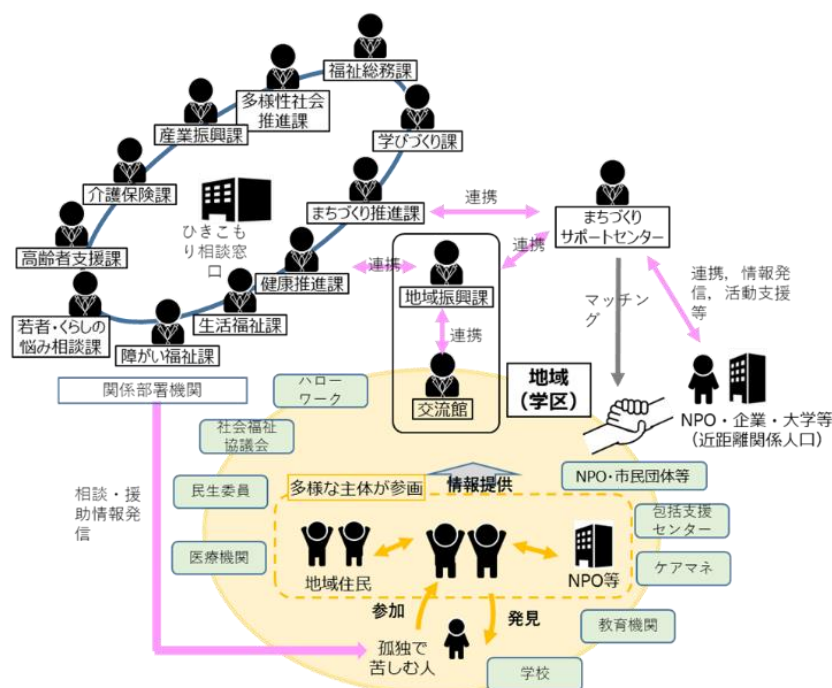


図 5-4 孤独・孤立対策に係る将来の連携イメージ

5.1.5 プラットフォームでの協議事項

行政、民間団体、市民ともに、孤独・孤立というテーマについての理解がまだ浅いため、まずは事例の共有等からスタートして、「何ができるか」から話し合っていくことを想定している。特に、これまで個別に進められてきた取り組みが「対処法の検討」中心であったことを踏まえ、本PFでは「予防」の観点からどのような取り組みができるかを協議していくことを中心に据える。

5.1.6 プラットフォーム形成に向けて工夫した点、苦労した点

様々な分野のプラットフォームや相談窓口を乱立させず、市内の各団体にとって負担とならず、かつ相談者等にとっても相談先が分かりやすいような取り組みを目指している。

そのため、プラットフォームの形成にあたっては既存の会議体（重層的支援会議等）とスケジュールを合わせ、メンバーに負担が生じないように留意している。本年度のモデル事業での取り組みでは、相談者向けに、支援マップの視認性向上のための改訂や、孤独・孤立対策のロゴマーク作成に取り組んだ。

ただし、5.1.1にて記載した通り既存の取り組みは縦割りでの実施が中心となっていることにより、「孤独・孤立」をテーマとする横串での取り組みについて行政内部や各ステークホルダーの理解を得ることに苦労した。

5.2 プラットフォームの形成途中の取組

5.2.1 プラットフォーム関係者の認識・課題意識の共有はどのように行ったか

支援機関やまちづくりに携わる機関等に対して、孤独・孤立対策に対する理解を深めるための活動として、ワークショップの実施や、孤独・孤立に関するフォーラムの開催を行った。具体的な取り組み内容については以下にて個別に記載する。

- 「孤独・孤立対策官民連携 PF 設立に向けたワークショップ」の実施

お互いの活動や課題を理解すること、孤独・孤立対策の担い手がつながること、学びあいを通じてノウハウを高めあうことを目標に、支援団体の方だけでなく、孤独・孤立問題や地域づくりに興味がある方を募集してワークショップを実施した。

実施日は2024年1月12日で、25名が参加した。

講師兼ファシリテーターとして特定非営利活動法人 ひろしまNPOセンター 専務理事・事務局長 松原 裕樹氏を招きグループワークを行った。



図 5-5 「孤独・孤立対策官民連携 PF 設立に向けたワークショップ」実施の様子

- 「孤独・孤立に関するセミナー・ワークショップ」の実施

交流館の市民に身近な相談窓口として地域課題や生活に関する相談を受ける機能を高めるため、交流館職員および関係課に配置している連携担当職員を対象に、傾聴に関するセミナーおよび孤独・孤立問題についてのワークショップを実施した。

実施日は2024年2月14日で、講師兼ファシリテーターとして特定非営利活動法人いねいぶる 理事長 宮崎 宏興氏を招き開催した。

第1部「聴く力/こころの応急手当て法」と題したセミナーは、108人の交流館職員等が各施設からオンラインで受講した。

第2部は「孤独・孤立を予防するまちをみんなで解く」と題し、24名の連携担当職員が大きな模造紙やLEGO®（レゴ®）を用いたワークショップで、手を動かしながら対話することでの課題と目標の共有をめざした。



図 5-6 「孤独・孤立に関するセミナー・ワークショップ」実施の様子

- 「孤独・孤立に関するフォーラム」の開催

支援機関の職員やまちづくりに関連する団体の役員、市民等、幅広い層に対し、孤独・孤立問題の現状の課題を知っていただき、向き合い方について考えるきっかけとすることを目指し、「孤独・孤立に関するフォーラム」を実施した。

実施日は 2024 年 2 月 10 日で、60 名が参加した。

講師として、内閣官房孤独・孤立対策担当室政策参与/認定 NPO 法人自立生活サポートセンターもやい 理事長 大西 連氏と、一般財団法人地域活性化センターフェロー・人材育成プロデューサー 前神 有里氏を招き、第一部では「孤独・孤立対策の概要と地域でできること」と題し、孤独・孤立問題についての現状や動向を紹介した上で地域においてどのような観点・方針で取り組みができるかを講演した。第二部では「つながりを生み出す地域づくり」と題し、まちづくりの視点で孤独・孤立を予防するためにどのような取り組みができるかについて講演を実施した。その後、講師 2 名と参加者を交えたフリートークを行い、参加者が今後取り組みたい孤独・孤立対策についての意見交換が行われた。

また、本イベントでは地域の手話サークルである「福山手話サークルとんど」の手話通訳者 2 名による手話の同時通訳を実施した。

孤独・孤立に関するフォーラム

～孤独・孤立とこれからのつながりについて考える～

「孤独・孤立」は、人生のあらゆる場面で誰にでも起こり得るもので、社会全体で対応しなければならない問題です。近年、人々との「つながり」が希薄化し、より深刻な問題となっています。

そこで、長年、地域づくり・人づくりに携わっている講師を迎えて、国の孤独・孤立対策の方向性を踏まえ、互いに支え合い、人と人の「つながり」が実感できる地域づくりに向け、私たちに何ができるのかを共に考えていくためのフォーラムを開催します。

先着100名
(事前申込制)

参加費
無料



日時 2024年(令和6年)2月10日(土)
14:00～16:00

会場 まなびの館ロースコム 4階 中会議室 (福山市霞町一丁目10番1号)

内容

第1部 講演

孤独・孤立対策の概要と地域でできること

講師：大西 達 氏 (内閣官房孤独・孤立対策担当政策参事／認定NPO法人自立生活サポートセンターもやい理事長)

第2部 講演

つながりを生み出す地域づくり

講師：前神 有重 氏 (一般財団法人地域活性化センターフェロー・人材育成プロデューサー)

主催・お問い合わせ先

福山市 保健福祉局 福祉部 福祉推進課

☎084-928-1061

メール fukushi-soumu@city.fukuyama.hiroshima.jp

お申込みはこちら

申込締切 2月7日(木)

<https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/ques/questionnaire.php?openid=854>

※ Web 申込が難しい場合は、申込書に記入の上、郵送してください。
※ 申込締切後でも参加可能ですので、最終まで参加ください。

支援機関の方、孤独・孤立問題や地域づくりに関心のある方、どなたでも参加可能ですので是非ご参加ください。



図 5-7 「孤独・孤立に関するフォーラム」開催チラシ



図 5-8 「孤独・孤立に関するフォーラム」実施の様子

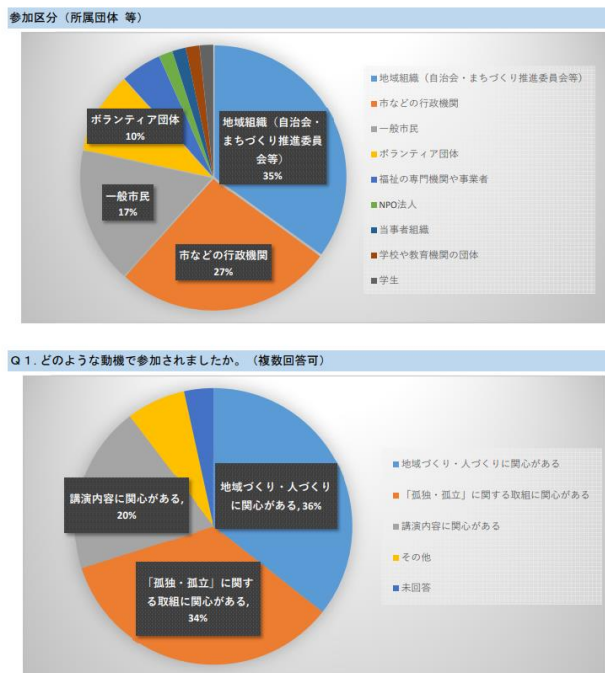


図 5-9 孤独・孤立に関するフォーラム 参加者アンケート抜粋

以下、フォーラムのアンケートにて回答いただいた、印象に残ったこと・感想等の一部を紹介する。

- ・ 「孤独・孤立」を感じている割合、4 割の中、20 代～50 代が多いという話でしたが、民生委員として活動している中で、その年代こそ接点もなく町内での情報が入りにくい現状がある（個人情報の扱いの厳しさから）。
- ・ 行政と地域、民間が一緒に頑張ろうという意気込みを感じた。また参加したいです。ありがとうございました。
- ・ 自分にも孤独・孤立の問題は身近になるなど強く感じました。コミュニティナースの活動、まずは場の設定が必要。「未来は誰もが未経験」「否定から入らない」など、人とのつながりを作っていく中でヒントになる言葉がたくさんありました。
- ・ 次のステップに具体的に動き出せる自治体に育っていってくれとよいのになあと感じます。力のある民間団体や市民は複数あり、様々な提案があがっているかと思います。官民両輪で中・長期的に取り組んでほしいです。

5.2.2 孤独・孤立対策に関する住民への周知・意識付けをどのように行ったか

孤独・孤立問題に関し、住民に対するアウトリーチ活動としては、「みんなのつれのうて文化祭」におけるステージ発表や、広報「ふくやま」での情報発信を行った。具体的な取り組み内容については以下にて個別に記載する。

- 「みんなのつれのうて文化祭」におけるステージ発表
福山市まちづくりサポートセンター主催の交流イベント「みんなのつれのうて文化祭」にて、孤独・孤立の問題に対して、各相談支援機関や NPO 等の連携の基盤となる PF の形成に向けた取組等を実施した。



図 5-10 みんなのつれのうて文化祭 チラシ



図 5-11 みんなのつれのうて文化祭 投影資料

- 広報「ふくやま」での情報発信

広報「ふくやま」2024年2月号にて、市民向けに、孤独・孤立問題の概要についての紹介や、孤独・孤立対策（大丈夫！あなたはひとりじゃない）メッセージ動画や相談窓口、孤独・孤立に関するフォーラムの案内を電子版・紙面版のそれぞれに掲載した。



図 5-12 広報「ふくやま」 孤独・孤立問題についての掲載ページ（紙面版）

5.2.3 団体内の孤独・孤立対策を充実させるための事業で何を優先させたか

市内の団体が孤独・孤立問題についてどのような認識を持っているか等を知り、今後の施策検討に反映させるため「孤独・孤立対策に向けたアンケート」を実施した。また、相談したい市民が行政・NPO・市民団体等を含めたアクセス先を視認性高く認識するために、社会資源マップの見直しやロゴマークの作成、「つながる」シート活用促進のためのリーフレット作成を行った。具体的な取り組み内容については以下にて個別に記載する。

- 「孤独・孤立対策に向けたアンケート」の実施

福山市まちづくりサポートセンター「まちサポ」登録団体、「福山市子ども食堂ネットワーク」登録団体、「ふくやま・ヤングサポートネットワーク」構成団体、

地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・相談支援事業所等の延べ 410 団体に対してアンケートを配布し、53 団体から回答を受領した。実施したアンケートの集計結果をもとに、分析・考察を行い、回答者および福山市の抱える課題について整理を行った。

アンケートは 2023 年 12 月 11 日～12 月 22 日に実施した。

回答数は 53 団体で、子ども食堂や介護施設、学習支援・カウンセリング団体、防災・インフラ・まちづくり団体、文化・芸術団体など、幅広い分野の関係者から回答を頂いた。

質問回答結果の例を以下に示す。

- ・ 孤独や孤立状態にあると感じる要因は様々ですが、貴団体が思う要因に近いものはありますか。

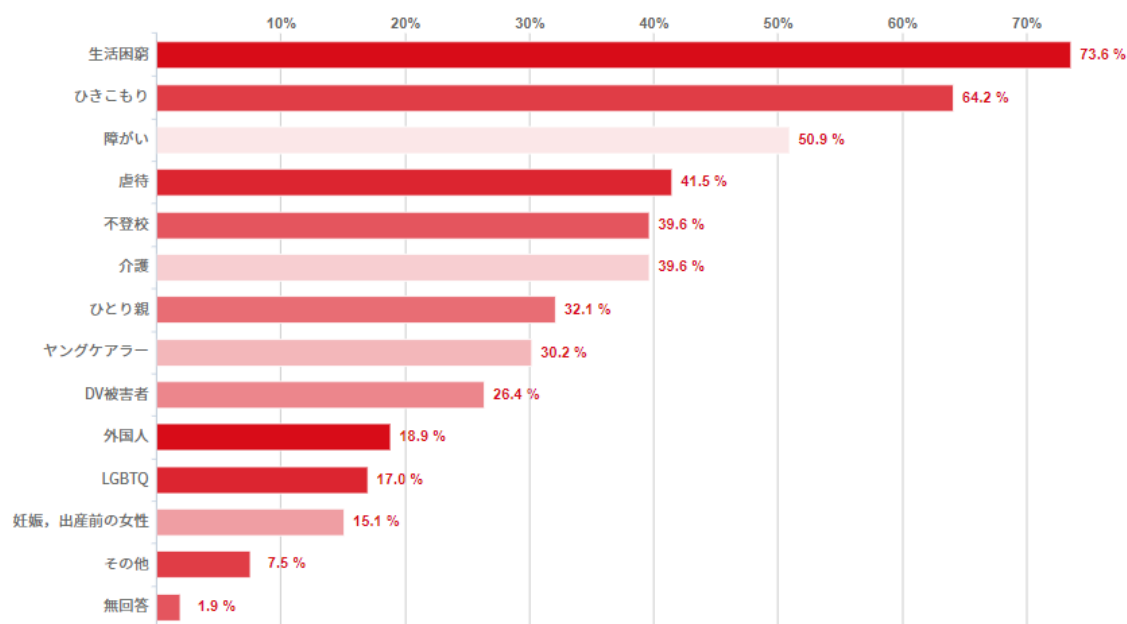


図 5-13

- ・ 孤独や孤立状態にある方の抱える悩みや課題が解決しない要因は何だと思えますか。

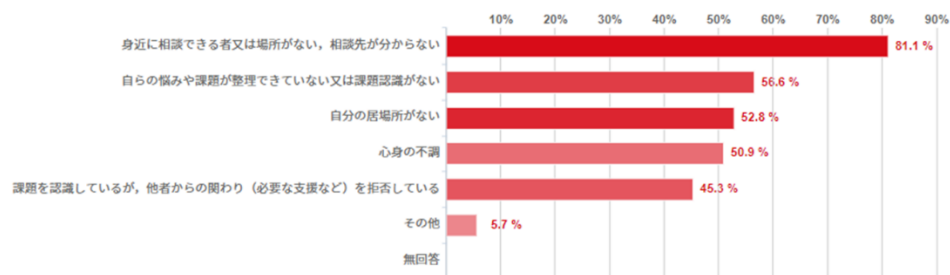


図 5-14

- ・ 「孤独」や「孤立」を感じた時に、支援を求める声をあげやすい社会とするためにどのような取り組みが必要だと思いますか。



図 5-15

- ・ 孤独や孤立状態にあると感じるケースの相談者として多いものを教えてください。

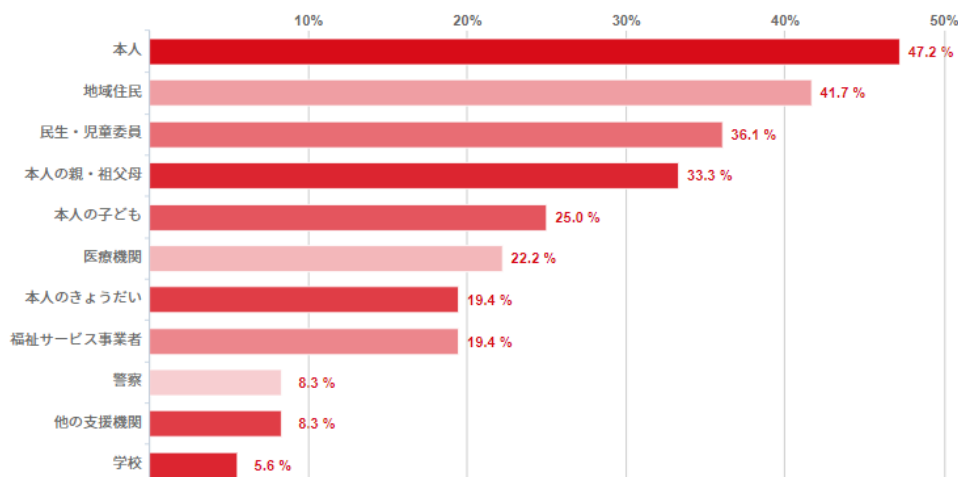


図 5-16

- ・ 孤独や孤立状態にあると感じる相談者について、本人の年齢層を教えてください。

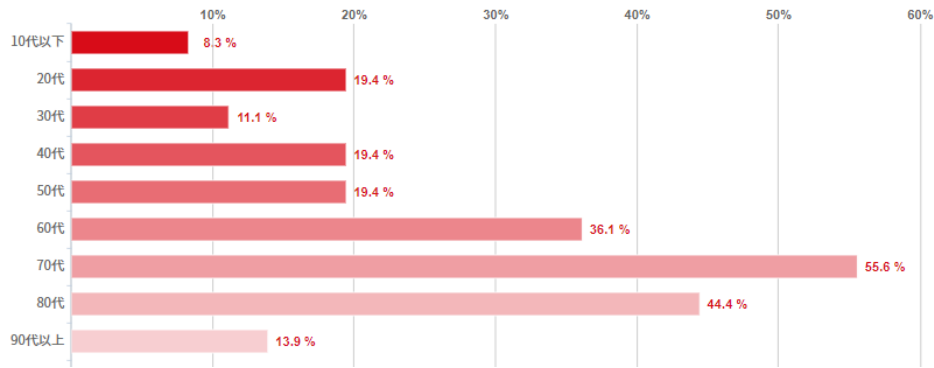


図 5-17

アンケート集計後、設問単体では対策の検討につながりづらい問いを中心に分析・考察を行い、回答者および福山市の抱える課題について整理を行った。

分析1

利用者・相談者等が孤独孤立に至るプロセス等に係る分析

- 1-1 各団体における「孤独・孤立問題」との接点についての分析
- 1-2 活動にあたっての課題の分析

分析2

各団体が抱える課題等に関する分析

- 2-1 相談者が孤独感を感じたり、孤立状態に陥るきっかけの分析
- 2-2 孤独や孤立状態にある方の抱える悩みや課題が解決しない要因の分析
- 2-3 孤独や孤立状態にある方を把握（発見）することが難しい要因の分析

回答の背景や、各課題に対し取り得る対応について考察を実施

図 5-18 アンケートの分析方針

- ・ 1-1 各団体における「孤独・孤立問題」との接点についての分析
 相談者が孤独・孤立状態にあると答えた回答者は、普段から福祉課題に関わっていることが想定される「保険 医療 福祉」のほか、「人権擁護 平和推進」、「情報化社会の発展」、「子どもの健全育成」（※子ども食堂等を含む）、「まちづくり」分野において 70%以上という結果を示している。
 このことから、直接的な支援団体のみならず地域に関わる多様なプレイヤーが孤独・孤立を予防したり、孤独・孤立状態にある人を適切な機関につなげた

りする役割を担う余地があることが分かる。

一方、「環境保全」分野では、相談者が孤独・孤立状態にあると答えた団体は少なく、また回答が1件しかなかった「観光振興」、「農山漁村 中山間振興」、「文化 芸術 スポーツ」分野でも孤独・孤立状態にあるという回答は無かった。

当該の団体等を利用して交流の場に参加する市民は、社会的つながりを維持できており孤独・孤立状態になりづらいと考え得る一方で、市民の孤独・孤立の前兆等に気づけていないという可能性も考え得る。

表 5-1：回答者の主な活動分野、相談者等が孤独・孤立状態にあると答えた割合

主な活動分野 (複数回答があった分野を抜粋)	相談者等が 孤独・孤立状態にあると答えた割合
人権擁護 平和推進	100% (2/2)
情報化社会の発展	100% (2/2)
地域安全	80% (4/5)
子どもの健全育成	75% (9/12)
保険 医療 福祉	73% (27/37)
まちづくり	70% (7/10)
市民活動支援	50% (3/6)
社会教育	50% (1/2)
環境保全	25% (1/4)

・ 1-2 活動にあたっての課題の分析

複数の回答があった9分類のうち6つの分類にて、活動に関する情報発信が十分にできていないとの課題が挙げられていた。現在まちサポ等を中心に人材・団体のマッチングや情報発信・共有等に関する取り組みが実施されているが、どのようなサポートがあれば当該課題を解消できるかを、追加の聞き取り調査等で把握するとよいだろう。

他にも活動継続上の課題（人材・経済的負担）等もみられる。こうした課題に対しては、場合によっては企業や金融機関による支援策（企業プロボノ、ソーシャルビジネス向け融資等）も考え得る。

表 5-2：回答者の活動分野ごとの、活動や組織運営にあたり抱える課題

回答者の分類	活動や組織運営にあたり抱える課題（上位3件）	回答者の分類	活動や組織運営にあたり抱える課題（上位3件）
(全回答)	- 活動に関する情報発信が十分にできていない (48.1%) - 現在行っている活動の負担が大きい (31.5%) - 新たな活動に取り組むのが難しい (27.8%)	地域安全	- 活動に関する情報発信が十分にできていない (60.0%) - 現在行っている活動の負担が大きい (60.0%) - 他の団体や機関等との連携や調整が難しい (40.0%)
保険 医療 福祉	- 活動に関する情報発信が十分にできていない (48.6%) - 現在行っている活動の負担が大きい (37.8%) - 新たな活動に取り組むのが難しい (37.8%)	人権擁護 平和推進	- 現在行っている活動の負担が大きい (100.0%) - 活動に関する情報が得にくい (50.0%) - 活動に関する情報発信が十分にできていない (50.0%)
社会教育	- 活動に関する情報発信が十分にできていない (50.0%) - 他の団体や機関等との連携や調整が難しい (50.0%) - 現在行っている活動の負担が大きい (50.0%)	子どもの健全育 成	- 他の団体や機関等との連携や調整が難しい (50.0%) - 新たな活動に取り組むのが難しい (41.7%) - 活動に関する情報発信が十分にできていない (33.3%)
まちづくり	- 活動に関する情報発信が十分にできていない (40.0%) - 他の団体や機関等との連携や調整が難しい (30.0%) - 現在行っている活動の負担が大きい (30.0%)	情報化社会の発 展	- 活動に関する情報発信が十分にできていない (50.0%) - 他の団体や機関等との連携や調整が難しい (50.0%) - 現在行っている活動の負担が大きい (50.0%)
環境保全	- 新たな活動に取り組むのが難しい (50.0%) - 活動に関する情報発信が十分にできていない (25.0%) - 他の団体や機関等との連携や調整が難しい (25.0%)	市民活動支援	- 活動に関する情報発信が十分にできていない (66.7%) - 他の団体や機関等との連携や調整が難しい (33.3%) - 現在行っている活動の負担が大きい (16.7%)

・ 2-1 相談者が孤独感を感じたり、孤立状態に陥るきっかけの分析

相談者が孤独感を感じたり、孤立状態に陥るきっかけとしては、「本人の心身に関すること」、「家庭に関すること」が最も多かった。

「本人の心身に関すること」は、具体的には心理的ストレスや病気・体調の悪化など、「家庭に関すること」は、具体的には、家族との離別・死別や、家族の病気・障害、家族間の重大なトラブル（家庭内別居・DV・虐待を含む）が本項目に該当すると想定される。

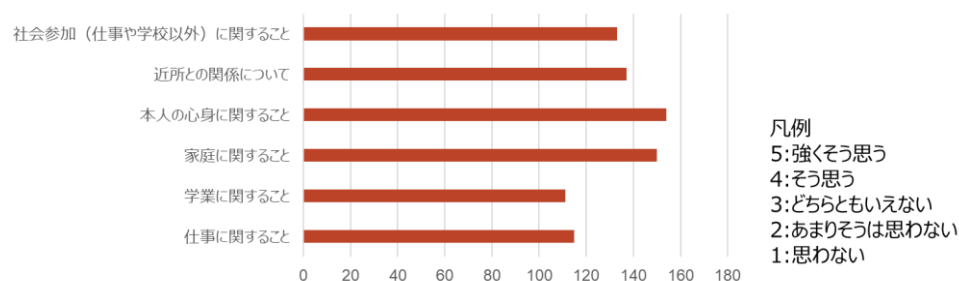


図 5-19：相談者が孤独感を感じたり、孤立状態に陥るきっかけ

・ 2-2 孤独や孤立状態にある方が抱える悩みや課題が解決しない要因の分析

孤独や孤立状態にある方が抱える悩みや課題が解決しない要因としては、最も多かったのが「自らの悩みや課題が整理できていない又は課題認識が無い」、次いで「心身の不調」、「身近に相談できる者又は場所が無い、相談先が分からない」が続いた。

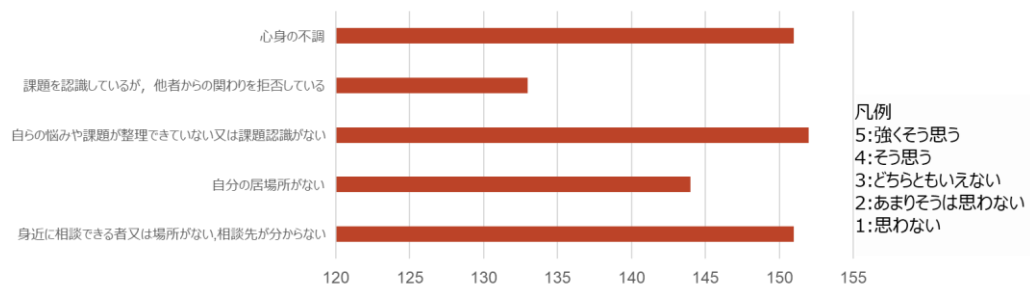


図 5-20：孤独や孤立状態にある方が抱える悩みや課題が解決しない要因

- 2-3 孤独や孤立状態にある方を把握（発見）することが難しい要因の分析
孤独や孤立状態にある方を把握（発見）することが難しい要因としては、支援者側の課題として「本人・家族との関係づくりの困難さ」、「要支援者への情報伝達不足」を特に感じていることが明らかになった。

関係づくりについては、福祉関連の団体以外も含め相互に勉強会・ワークショップを実施することで、ナレッジやスキルを共有知化することが求められると考えられる。また、要支援者への情報伝達については、より情報にアクセスしやすい資料整備・広報の他に、アウトリーチ型の活動も求められるだろう。

いずれも、行政や他の支援機関によるサポートによって改善する可能性がある領域と史料する。

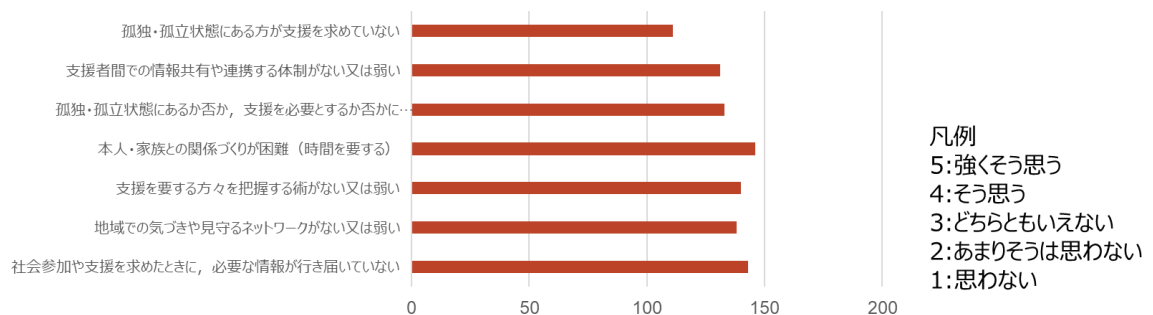


図 5-21：孤独や孤立状態にある方を把握（発見）することが難しい要因

アンケートの集計結果と分析結果を踏まえると、まちづくり分野と福祉分野の連携等を進めつつ、退職を迎えた高齢層へのアプローチ策などの検討、調査の深堀の実施等を進めることが重要であると考えた。具体的な取り組みの方向性の提言は以下の通り。

既存の取り組み例		アンケートにて見えてきたこと	今後の方向性について
支援機関 間連携	- まちサポでの団体間連携促進、マッチング等 「つながる」シートの活用による継続的な支援実現	集計結果より - 孤独孤立の要因としては生活困窮・不登校・ひきこもりを挙げる回答者が多い - 孤独孤立は若者から高齢者まで幅広く存在、特に今回の回答では70代が最多 - 相談の主体としては本人が最多だが、地域住民や民生委員からの相談も次いで多い	取り組みの方向性 - アンケートに回答していただいたまちサポの団体含め、まちづくり分野と福祉分野のプレイヤーの情報連携（ひいてはインフラ事業者等も含む）が進むことで、課題解決につながるが見込まれる。 - 孤独・孤立に陥りやすい層として、高齢者へのアプローチ策（相談しやすいの向上、つながりの場の提供等）について重点的に検討する必要があるだろう
若者支援	- ふくやま・ヤングサポートネットワーク設置 - 支援者向け研修等	分析・考察結果より - 市民が交流の場に参加するためのサポートや、各団体に孤独・孤立の前兆に気づけるためのサポートの両面が必要とされている - 孤独・孤立状態にある相談者は、自らの悩みや課題が整理できていない又は課題認識が無いことにより孤独・孤立状態が続いているケースが多い - 支援機関等にとっては、本人・家族との関係づくりの困難さや伝達不足が課題であり、ナレッジやスキルの共有知化やアウトリーチ型の支援が求められる	次年度以降の追加調査等 - 各団体の課題に感じている点に関しては、既に取り組みが進んでいる領域も多い。（マッチングつなかり創出等）取り組みを進めれば解決に向かうか、別のアプローチが必要か、聞き取り等により把握したい。 - 市における孤独孤立の現状をより深く把握し、全国の傾向と比較するために、一般住民向けのアンケートや福祉関係の団体向けの調査を実施してもよいだろう。
ひきこもり対策・支援	ひきこもり相談窓口「ふきのとう」設置		
こども食堂支援	福山市子ども食堂応援金を交付		
相談先の周知	社会資源マップの公開		

図 5-22：アンケート結果を踏まえた今後の方向性の提言

● 社会資源マップの見直し

子ども・若者向けの相談窓口を一覧化・見える化して紹介する社会資源マップについて、より視認性を高め利用しやすくするためにデザインの見直しを実施した。

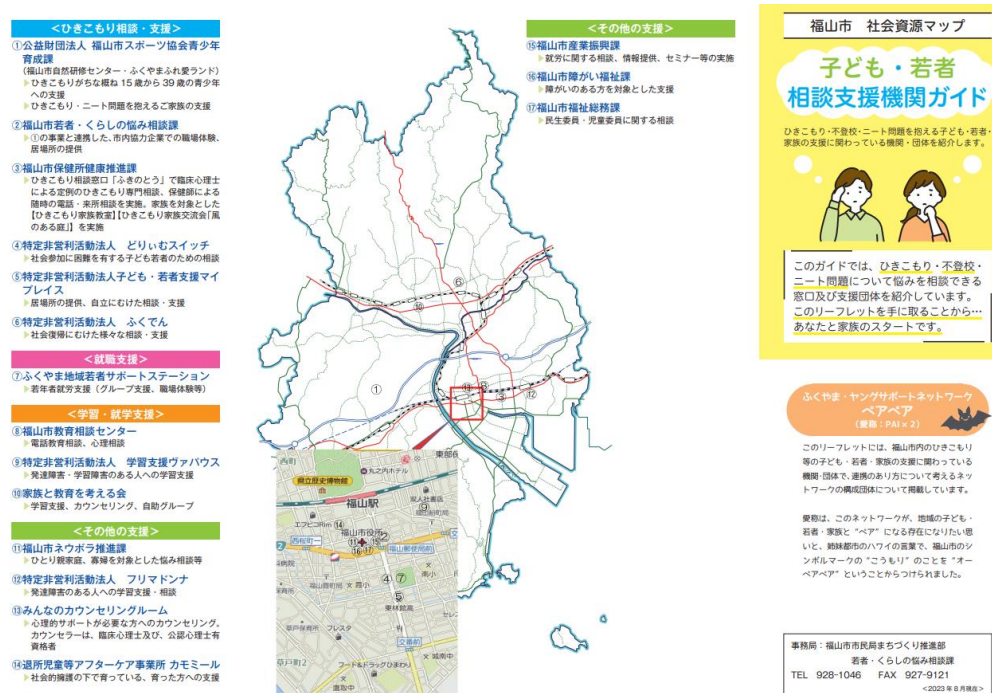


図 5-23 社会資源マップ 表面

ひきこもり支援	
1 公益財団法人 福山市スポーツ協会青少年育成課（福山市自然環境センター「ふくやまふるまうプラザ」内） 〒720-0842 福山市宮前大字幸楽中 15-45 番地 TEL 084-952-1177 Email: fureai-handicraft@fukuyama-hiroshima.jp HP: https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fureaihand/ 受付時間：8:30～17:15（年末・年始を除く）	ひきこもりやひきこもりがちな青少年や家族を対象に相談をお受けしています。また、社会へ一歩踏み出すお手伝いをする「社会復帰活動プログラム」を4月から3月の間、週1回のペースで、楽しい夢を叶えながら実施しています。（※4月3日 休診で、ひきこもり・ネット・開通について悩みを抱えるご家族相互の情報交換・学びの場として「家族交流会」も開催しています。
2 福山市若者・くらしの悩み相談課 〒720-0501 福山市東瀬戸3番5号 福山市総合市民センター1階 TEL 084-920-1045 Email: yakamono-kurashi@city.fukuyama.hiroshima.jp HP: https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/sochihi/yakamono-kurashi/ 受付時間：平日8:30～17:15（土・日・祝日・年末・年始を除く）	自分にひきこもりがちな方や家族を対象に相談をお受けしています。また、上記「1」の社会復帰活動プログラム参加者も対象に、市内の能力次第で就職体験を行う就業支援プログラムを実施しています。ほかに、福山市内の方やそのご家族の方へ、希望・悩みの点に合わせた個別の相談・指導で構成する「ふくやま・ヤングサポートネットワーク」で、相談者を必要に応じて支援へつなぐ相談しや、講座なども行っています。
3 福山市健康推進課 〒720-0032 福山市三井町二丁目11番22号 福山市こどもセンター6階 TEL 084-920-3421 Email: hanken-saishin@city.fukuyama.hiroshima.jp HP: https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/sochihi/hanken-saishin/ 受付時間：平日8:30～17:15（土・日・祝日・年末・年始を除く）	ひきこもりで悩んでいる本人や家族を対象に、ひきこもり相談窓口（ふくまのとう）において相談をお受けしています。応じて、関係課や関係機関につなぐます。また家族を対象に、【ひきこもり家族支援】や【ひきこもり家族交流会（見守る会）】を開催し、ひきこもりに関する悩みを、関係課との交流を図っています。その他、【精神保健】によるこころの健康相談も実施しています。
4 特定非営利活動法人とりいむスウィッチ 〒720-0812 福山市宮前大字日吉8番15号 曙ビル2階 TEL 084-971-4885 HP: https://dreamswitch.or.jp/ 受付時間：10:00～18:00（土・日・祝日・お盆・年末・年始を除く）	不登校やひきこもりがちな若者や家族ができていない「子ども」や若者、または家族の相談をお受けしています。親子こころの相談や希望を叶えるためにはどうすれば良いかを一緒に考えたり、利用できる社会資源のご紹介をしています。（予約制 無料）
5 特定非営利活動法人子ども・若者支援ダイヤリス 〒720-0814 福山市東瀬戸一丁目1番36号 未来館第一・二・三階 TEL 084-922-6177 Email: myplace@ncc.or.jp HP: https://ncc-myplace.or.jp/ 受付時間：9:30～18:00	安心して出かけていけること、自分ができる様、心の健康を養い、希望の未来のステップと人間性をつくりながら、それぞれの個性に向けて一緒に考えサポートしています。保護者の方からの相談や子ども・若者たちからのご相談、考え方の方向性も支援しています。（予約制 無料）
6 NPO法人 ふくでん 〒720-2104 福山市宮前大字2989番地3 TEL 084-962-6449 Email: fukuden.sends230501@river.ocn.jp 受付時間：随時	「安心して世の中を歩きたい」「習字・書写・習字をしない」「習字に抵抗なく支援を受けたい」「生活面での不安を解消したい」「生活の一端を担いたい」「取り立てる方法を見つけてみたい」「更し、社会の一員として暮らしたい」。このような悩みを抱える方と一緒に考えます。
就職支援	
7 ふくやま地域若者サポートステーション 〒720-0812 福山市宮前大字日吉8番15号 曙ビル2階 TEL 084-959-2348 Email: info@fukuyama-saso.org HP: https://fukuyama-saso.org/ 受付時間：10:00～18:00 （土・日・祝日・お盆・年末・年始を除く）	15歳から49歳の就労希望者も受け付けて、6ヶ月以内に就職を目指す方を対象に、個別に合わせた支援を実施しています。キャリアアッププログラムによる専門的な相談や就職相談、社会人実習プログラムによる具体的な支援、コミュニケーションスキルや人間的スキルのグループ支援や就職相談などによりご自身の希望を叶えたい方から支援を行います。（予約制）
学習・就労支援	
8 福山市教育相談センター 〒720-0073 福山市北東瀬戸三丁目13番5号 TEL 084-924-5506 0120-874-743（通話料がかかります） HP: https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/kyokai/ 受付時間：電話相談時間 10:30～15:00（月～金曜日） 心理相談 12:00～16:00（月2回、水曜日）	電話により、教育関係者からつた、幅広く相談に応じています。また、悩みや不安を抱える家族、児童生徒や保護者に心理学的な視点から助言・支援を行う心理相談も実施しています。（予約制）
9 特定非営利活動法人 学習支援ヴァピウス 〒720-0044 福山市宮前2番25号 TEL 084-917-5014 Email: vapiuscenter@vapius.info HP: https://ja.jp.facebook.com/vapius/ 受付時間：17:00～（月・水・木・金曜日）	発達障害・学習障害の傾向にある人、自分に自信が持てない、コミュニケーションをとることに難しさを抱えている人等を対象に、学習活動の進度で学習支援を行っています。学習に際す学習意欲の向上を図るため、自分の強み、自分の長所を伸ばすための学習活動を行っています。また、個人で悩んでいる方にも相談に応じて、応じています。（無料）
10 夢と希望を育む会（K4） 〒720-1131 福山市宮前大字道1256番地1 NSビル1F6号 TEL 084-970-7853 Email: yokosaka@k4kai.jp HP: https://kazoku-to-koyouku.com/ 受付時間：（月）（水）（木）10:30～19:30 （土）（日）13:00～19:00	発達障害や、障害や学校での人間関係に起因する問題で悩んでいる人、ためのかんセリング、サポート活動、親から虐待を受けた人、生活環境に起因する問題で悩んでいる人などが、お互いの長所や短所を認め合う自助グループを運営しています。また、悩んでいる方から相談を受けて、必要に応じて学習支援を行っています。（予約制、無料）
その他の相談支援	
11 福山市多文化推進課 〒720-0501 福山市東瀬戸3番5号 福山市役所7階 TEL 084-920-1053 Email: neworld-saishin@city.fukuyama.hiroshima.jp 受付時間：平日8:30～17:15（土・日・祝日・年末・年始を除く）	ひとりで悩んでいる、言葉の文化、習慣、子育てについての相談を受けています。また、生活困窮者等への学習支援も実施しています。
12 特定非営利活動法人 フリマドンナ 〒721-0512 福山市東瀬戸二丁目17番20号 TEL 090-8714-6330 Email: furimadonna2017@outlook.jp HP: http://www.furimadonna.com/ 受付時間：10:00～18:00（月～土曜日・年末年始を除く）	発達障害及びアスペルガー症候群における本人や保護者のこころの悩みと親子こころの相談に対応します。発達障害があるがゆえの周囲とのトラブルや生活面での悩みなどへの相談を受けています。（予約制、個別相談は無料）
13 みんなのカウンセリングルーム（YJ心理臨床事務所） 〒720-0031 福山市三井町一丁目1番4号 WorkStyleがらし TEL 0120-874-307 070-6504-9164（携帯電話） Email: danu@yjcounseling.jp HP: https://yjcounseling.jp/ 電話受付時間：9:00～21:00 営業時間：平日16:30～22:00 土・日曜日12:30～22:00（GW・お盆・年末・年始を除く）	学校生活、仕事、家族関係等あらゆる生活場面での悩みのサポートが必要となる方、自分自身の悩みや、心身の健康を回復したい方に対して、心理臨床的援助（カウンセリング）を行います。また、不登校やひきこもりを止めたいと子育てで悩む方にも必要な心理臨床的援助や家族に合ったカウンセリングも実施しており、一緒に問題解決を図っています。（予約制、無料）カウンセリングは、個人と家族及び、広域心理臨床事務所。
14 近所民権あふたワークス事業所「カモミール」 〒720-0066 福山市三之丸町6番5号 三之丸ビル3階 TEL 084-959-3278 Email: info@chomionline.jp HP: https://chomionline.jp/ 受付時間：13:00～18:00（火～土曜日）（祝日・年末・年始を除く）	社会的課題の下で育っている児童、育った方を対象に就労・自立に向けた支援を実施しています。生活上のちょっとした困りごとから、人間関係、各種手続きなどの相談、法政や社会生活の相談や就職活動の相談の相談も含め、社会的自立に向けた活動を支援しています。（予約制）
15 福山市産業振興課 〒720-0501 福山市東瀬戸3番5号 福山市役所7階 TEL 084-920-1040 受付時間：平日8:30～17:15（土・日・祝日・年末・年始を除く） 就労支援・就業相談、セクハラ等を実施しています。（就業紹介・相談をするものではありません）	16 福山市障がい福祉課 〒720-0501 福山市東瀬戸3番5号 福山市役所1階 （福祉事務室内） TEL 084-920-1026 FAX 084-920-4730 受付時間：平日8:30～17:15（土・日・祝日・年末・年始を除く） 障がい者・精神障がい者の手帳、医療、手帳等に関する支援を実施しています。
17 福山市福祉相談課 〒720-0501 福山市東瀬戸3番5号 福山市役所3階 TEL 084-920-1045 受付時間：平日8:30～17:15（土・日・祝日・年末・年始を除く） 児童養育・児童養育による福祉や子育てに関する相談も受けています。	

図 5-24 社会資源マップ 裏面

- ロゴマークの作成および「つながる」シート活用促進のためのリーフレット作成
- 孤独・孤立を抱える方が、どこに相談すればよいのかが一目でわかるようにするために、取り組みを行う支援機関や窓口に掲示するロゴマークを作成した。福山市のシンボルである福山城のあるエリアが古くは蝙蝠山と呼ばれていたことから、コウモリをモチーフにしたキャラクターを作成し、ロゴマークに取り入れた。



図 5-25 作成を実施したロゴマークの例

5.1.1 にて記載した「つながる」シートの活用促進や、各相談窓口へのアクセス

向上のため、上記のロゴマークを使用したリーフレットを作成した。

つな・が・る

「つな・が・る」シートは、相談したいことや困っていることを記入することで必要な支援がスムーズに行えるようにするためのものです。つな・が・る窓口の一覧は裏面をご覧ください。

つな・が・る シートに記入しよう

1 チェック式で簡単記入
2 じっくりなんでも聴くよ
3 関係する部署と連携し、相談内容の解決に動く！

「つな・が・る」シートは、相談したいことや困っていることを記入することで必要な支援がスムーズに行えるようにするためのものです。つな・が・る窓口の一覧は裏面をご覧ください。

このまちのさまざまな相談窓口

このまちのさまざまな相談窓口について詳しくは、各相談窓口にお問い合わせください。

このまちのさまざまな相談窓口

このまちのさまざまな相談窓口について詳しくは、各相談窓口にお問い合わせください。

図 5-26 「つな・が・る」シート活用リーフレット

以上に記載した試行事業の一覧を下表にて示す。

表 5-3：試行事業の一覧

事業名称	事業内容	目的・期待される効果	実施時期	発注先(予算配分)
「みんなのつれのうて文化祭」におけるステージ発表	「まちサポ」登録団体同士の交流や活動の周知を目的とした発表（孤独・孤立の問題に対して、各相談支援機関やNPO等の連携の基盤となるPFの形成に向けた取組等）	NPOや市民団体の孤独・孤立への興味関心の促進、PFへの参加	2023.11.19	無
孤独・孤立対策に向けたアンケート	「まちサポ」「福山市子ども食堂ネットワーク」「ふくやま・ヤングサポートネットワーク」の登録団体向けに孤独・孤立対策に関するアンケート実施・分析	今後の施策検討への反映、NPOや市民団体の孤独・孤立への興味関心の促進、PFへの参加	2023.12.11～12.22	NTTデータ経営研究所：(900,000円)
ワークショップの開催	アンケートを経て、「孤独・孤立対策」に興味がある団体を含めて開催する。支援者間での意見交換・勉強会を実施	支援者間の連携を促進 普段担当していない分野の状況把握、知識の獲得	①2024.1.12 ②2024.2.14	講師：松原裕樹様 (31,620円) 講師：宮崎宏興様 (39,550円)
孤独・孤立に関するフォーラム開催	孤独・孤立についての講演、取組事例の紹介を行う	支援者間の連携を促進 孤独孤立に対する、他市を含めた全国的な取り組みを知る	2024.2.10	丸井工文社（ポスター・チラシ作成） (94,500円) 講師：大西連様 (76,990円) 講師：前神有里様 (38,780円) 手話サークルとんど（小西舞子様、鈴木和子様）： (8,000円)
ロゴマーク・リーフレット作成	孤独・孤立についての取り組みを行う支援機関や窓口に掲示するロゴマークを作成、「つな・が・る」シート活用促進のリーフレット作成	孤独・孤立を抱える方が、どこに相談すればよいのか一目でわかるようにするため	2024.2.29	フクワライ舎 (220,000円)
社会資源マップの見直し	行政・NPO・市民団体等を含めた孤独・孤立問題に対するアクセス先を視認性のよいマップ化する（既存のものを改訂デザインを見直し）	悩みを抱える市民に対し、近隣にどのような支援団体があるのか及びその連絡先を理解いただく	2024.2.29	丸井工文社 (60,000円)
		合計		1,469,440円

5.2.4 次年度以降予定している取組

2024 年 5 月には、PF の設立を発表し初回の会議を開くことを予定しており、商店街の事業者等、NPO 以外の民間事業者向けに声掛けしてワークショップを実施することを検討している。

また、今年度の取り組みの延長として、市民向けの孤独・孤立に関するアンケートを実施して、全国を対象とした調査結果との違いを比較することや、市の広報誌等を利用して、孤独・孤立問題と市で行っている取り組みについて更なる市民への周知を行うことを予定している。